



【Microsoft Intune】 Windows Update 管理機能

2026年06月30日

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2026年6月30日	初版発行

本資料の内容は 2026/6/30 時点のものです。製品のアップデートにより変更となる場合がございます旨ご了承ください。

Agenda

1. 前提情報
 1. 本書の目的
 2. 用語集
2. 背景・基本概念
 1. Windows Update 管理の必要性
 2. 従来の WSUS 運用と課題
 3. Microsoft Intune による
Windows Update 管理のメリット
3. Microsoft Intune による Windows Update 管理の仕組み
 1. 全体像
 2. 主要機能
 3. Windows Autopatch の位置付け
4. 導入と設計のポイント
 1. 運用方針の選定
 2. 更新リング設計
 3. 機能更新ポリシー設計
 4. 品質更新ポリシー設計
 5. WSUS からの移行における注意点
5. ライセンスと制約条件
 1. ライセンス



1. 前提情報

1.1. 本書の目的

目的

本資料は、Microsoft Intune による Windows Update 管理の基本情報を理解し、お客様自身で従来の WSUS 運用からクラウドベース管理へ移行するための判断と設計ができるようにすることを目的としています。そのための関連情報や知識をまとめています。

1.2. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
1	パッチ	OS の不具合やセキュリティの弱点（脆弱性）を修正するための小さな修正プログラム。主にウイルスや攻撃から PC を守るために提供され、毎月の更新でまとめて配布される。
2	クラウドベース管理	クラウド上の基盤（サーバー・サービス）を利用し、インターネット経由で IT 資産やシステムを管理する方式。
3	ゼロタッチ運用	利用者や管理者が手作業で設定・操作を行うことなく、デバイスの導入・設定・運用を自動で実施できる管理方式。
4	ロールアウト	システムやサービス、機能を段階的または計画的に利用者へ展開していくプロセス。
5	KB	Microsoft の Knowledge Base（ナレッジベース）の略で、更新プログラムや不具合情報に付けられる識別番号。この番号を使うことで、更新内容や修正された問題を公式情報から特定できる。
6	閉域網	インターネットから切り離された、限られた範囲だけで通信するネットワークのこと。外部からのアクセスを制限することで、セキュリティを高めた安全な通信環境を実現する仕組み。
7	データベース	関連するデータを整理・構造化して保存し、検索・更新・利用しやすくしたデータの集合。
8	OS メジャーアップグレード	OS のバージョンそのものが変わる大規模な更新で、機能追加や仕様変更を伴うアップグレード。
9	パイロット	本番展開前に、一部のユーザーやデバイスに限定してシステムや更新を試験的に導入・検証する運用フェーズ。

1.2. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
10	マネージドサービス	IT システムの運用・管理（監視・保守・セキュリティなど）を外部の専門会社（例：Microsoft など）に任せる包括的なサービス。
11	プレビュービルド	ソフトウェア（例：Windows）の正式リリース前の開発段階で公開されるテスト版のこと。
12	ユーザーエクスペリエンス	Windows Update が実行されるときユーザーの体験（通知・再起動・操作性）を制御する設定。再起動のタイミングや、インストール方法の選択など。
13	Microsoft Entra ID	Microsoft 社が提供するクラウド型の ID およびアクセス管理（IAM）サービス。Microsoft 365 や Intune Azure などの認証基盤として、世界中の多くの企業・組織で利用されている。
14	ホットパッチ	Windows Updateにおいて、OS の再起動なしでセキュリティ更新を適用できる仕組み。
15	GPO	Group Policy Object の略。Active Directory 環境で、ユーザーやコンピュータに適用する設定（ポリシー）をまとめた管理単位。
16	SCCM (System Center Configuration Manager)	Microsoft が提供する、企業内の PC やサーバーを一元管理するためのオンプレミス型のエンドポイント管理ツール。
17	Microsoft Entra ID 参加 (Join または Hybrid)	Windows デバイス（PC など）を Microsoft Entra ID に紐づけて、認証・管理・アクセス制御の対象として登録する方法。 Join はクラウド参加でデバイスが Microsoft Entra ID のみに参加、オンプレミス Active Directory は使わない。Hybrid はデバイスが オンプレミス Active Directory + Entra ID の両方に参加。



2. 背景・基本概念

2.1. Windows Update 管理の必要性

Windows Update は、脆弱性対策や品質改善のために継続的に提供される更新プログラムです。更新を適用しない場合にはセキュリティリスクが高まりますが、更新を無計画に行うと業務影響を引き起こす可能性があります。

そのため、組織全体のセキュリティと安定稼働を維持するには Windows Update を計画的かつ統制された形で管理する仕組みが求められます。

なぜ Windows Update 管理が必要か？



セキュリティ維持

Windows OS の脆弱性修正の更新

Windows Update 管理をしない場合…

- ・パッチが適用されないため OS の脆弱性が修正されない
- ・サイバー攻撃やマルウェア侵入リスクが増大



システムの安定稼働

既知の不具合修正や機能追加の更新

Windows Update 管理をしない場合…

- ・既知の不具合やバグが解消されない
- ・OS とアプリケーションの互換性が異なることによる問題が発生する可能性



ガバナンス保持

社内端末の Windows OS 状況を把握

Windows Update 管理をしない場合…

- ・全端末を最新の状態に保てているかの確認ができない
- ・コンプライアンス違反につながる



Windows Update 管理は「更新プログラムを適用すること」が目的ではなく、
「セキュリティ・安定稼働・ガバナンスを保持すること」が目的。

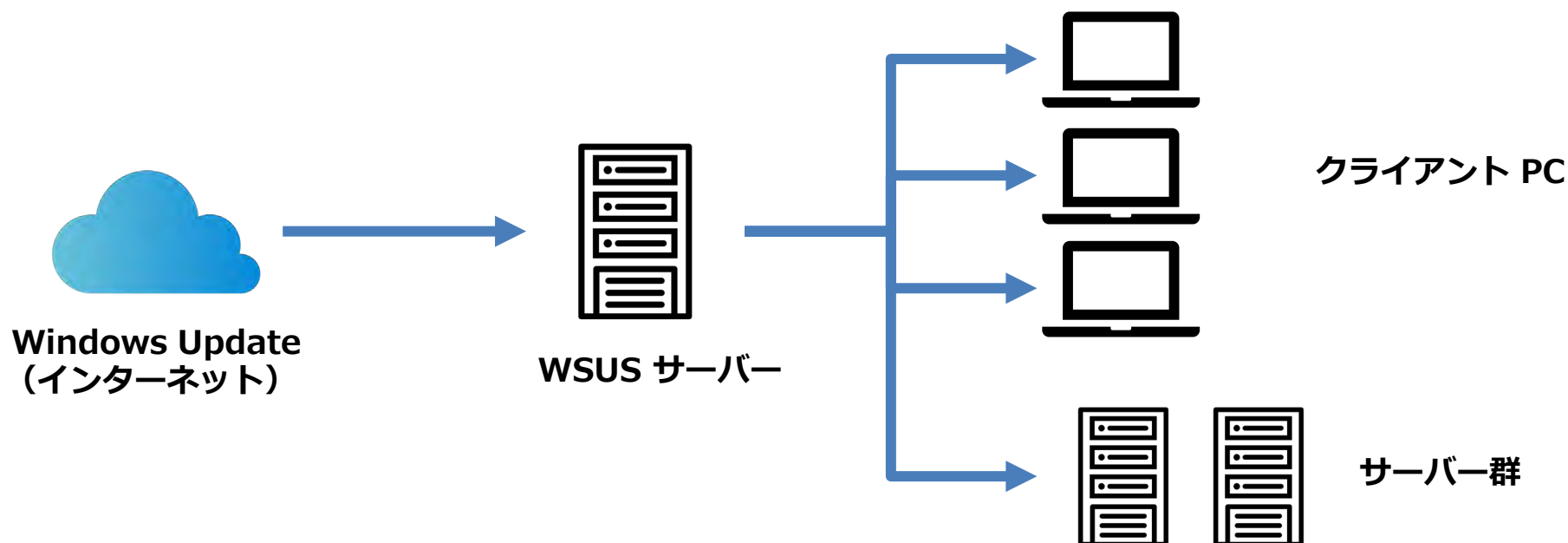
2.2. 従来の WSUS 運用と課題

従来の Windows Update 管理方法としては、Windows Server Update Services（以下、WSUS）が広く利用されてきました。しかし、近年の企業の IT 環境の変化を背景に、Microsoft はクラウドベース管理への移行を推奨しています。

WSUS の概要

WSUS とは、Microsoft が提供する企業向けの無償更新管理ツールで、Microsoft 製品の更新プログラムの適用を制御する役割を持つ。更新専用の WSUS サーバーを社内に設置し、Windows 更新プログラムを一度 WSUS サーバーへダウンロードすることで、社用 PC の更新プログラムの一元管理や、社内への効率的なプログラムの配布を実現。

WSUS は近年のクラウド移行の背景から Microsoft より非推奨サービス対象となり、今後新機能は追加されないと発表されている。ただし、運用環境は引き続きサポートされ、製品のライフサイクルの範囲内においてセキュリティと品質の更新プログラムは提供される。※詳細については、[こちら](#)をご参照ください。



2.2. 従来の WSUS 運用と課題

WSUS 運用の4つの課題

働き方の多様化やクラウド活用が進む中、WSUS 中心の更新管理では運用負荷や管理上の制約が顕在化しており、クラウドベースの更新管理サービスへの移行が推奨されています。

1 サーバーの維持管理負荷

WSUS は社内サーバー上で運用する必要があり、サーバー管理に伴う継続的な運用負荷が発生。

- ・ Windows Server の保守・更新
- ・ バックアップ運用
- ・ データベース管理
- ・ 障害対応
- ・ ディスク容量監視

2 オンプレミス依存による運用管理負荷

WSUS は社内ネットワーク利用前提のため、テレワーク端末への更新配布に課題が生じる。

- ・ VPN 接続が必要
- ・ VPN 帯域圧迫
- ・ 更新配布の遅延
- ・ 社外端末の管理漏れ
- ・ 業務通信への影響

3 運用担当者の業務負荷

更新プログラムの配布には以下の運用が必要。運用ノウハウが属人化しやすく、担当者業務に負荷。

- ・ 更新プログラム承認
- ・ 配布タイミング調整
- ・ 障害時の対応
- ・ 適用状況確認

4 クラウド管理との機能差

Microsoft Intune を利用したクラウドベースの更新管理が普及し、機能面で差が生じる。

- ・ インターネット経由管理
- ・ ゼロタッチ運用
- ・ ポリシー管理の柔軟性
- ・ レポート機能

2.3. Microsoft Intune による Windows Update 管理のメリット

Microsoft Intune（以下、Intune）を活用することで、オンプレミスの WSUS サーバーを介さず、Microsoft のクラウドサービスを利用した Windows Update 管理が可能となります。

✓ Intune でできること

- 個々のパッチを管理せずにデバイスの更新設定を構成
- ロールアウトのタイミング制御と更新リングによるリスク軽減
- OS バージョンの固定（例：Windows 11 24H2で維持）
- ドライバー更新の承認・制御

✗ Intune でできないこと

- KB 単位での個別承認・拒否（WSUS のようなきめ細かな選択は不可）
- 更新プログラム自体の保持・配布（Intune はポリシーのみ格納）
- 閉域網での更新管理不可

WSUS と Intune の比較

項目	WSUS	Intune
定義	オンプレミス配布サーバー	クラウドポリシー管理基盤
自由度	KB 単位で承認・拒否可能	更新する端末のグループ単位での更新延期・期限を制御
通信方法	社内ネットワーク（VPN 必須）	インターネット経由（場所不問）
適用制御	管理者が手動で承認・配布	ポリシーによる自動適用
運用コスト	サーバー維持・データベース管理が必要	サーバー不要・クラウド管理
管理コスト	高い（専任担当が必要）	低い（ポリシー設定のみ）



3. Microsoft Intune による Windows Update 管理の仕組み

3.1. 全体像

Intune 本体は WSUS サーバーのように更新配布を行うサーバーではなく、更新配布ポリシーを管理するクラウドサービスという位置付けです。Windows Update は、各 Windows 端末が直接取得します。実際の Windows Update の制御は、Microsoft が提供する **Windows Update for Business** によって実現されています。

Windows Update for Business と Intune の関係

- Intune は更新ポリシーを管理するクラウド管理基盤であり、実際の更新制御は Windows Update for Business によって実行される
- Intune 管理画面から設定した更新ポリシーが、Windows Update for Business を通じて端末に適用される
- 両者を組み合わせてクラウドベースの Windows Update 管理を実現する

更新フロー



- デバイスは Microsoft Intune からではなく、**Windows Update for Business の更新制御エンジンを介して Windows Update から直接更新プログラムをダウンロードする**
- Intune はあくまでポリシー制御を担う基盤として機能する

3.2. 主要機能

Intune で Windows Update 管理を行う主要機能を解説します。Intune は4種類の Windows Update ポリシーテンプレートを提供し、Windows Update for Business の各側面を管理します。具体的なポリシーは以下の通りです。

主要機能一覧

ポリシーテンプレート	管理対象	概要
更新リング (Update Ring)	更新全般	Windows 更新プログラムの適用を複数ステージに分け、小規模グループで検証してから全社に展開するための仕組み。不具合の早期検知と被害拡大の抑制を実現。
機能更新ポリシー (Feature Updates)	OS バージョン	OS メジャーアップグレード(例: Windows 11へのアップグレード)のバージョンを維持・管理・展開する仕組み。指定した Windows バージョンに固定して不要なアップグレードを抑制したり、新バージョンへの計画的ロールアウトを実現。
品質更新ポリシー (Quality Updates)	月例パッチ	月例の累積更新プログラム (セキュリティ/バグ修正) をデバイスに適用する仕組み。適用期限や展開対象を制御することで、セキュリティリスクへの迅速な対応と業務影響の最小化を両立。
ドライバー更新ポリシー (Driver Updates)	ハードウェア	Windows Update 経由で配信されるドライバーやファームウェアの更新を管理。特定ベンダーのドライバーを Intune 上で承認/却下や、更新配布を段階的に解禁したりできる。ハードウェア更新による不具合リスクを軽減し、必要な更新のみ提供を実現。

3.2. 主要機能

ここからは、前ページ記載の主要機能を詳細に解説していきます。

更新リング (Update Ring)

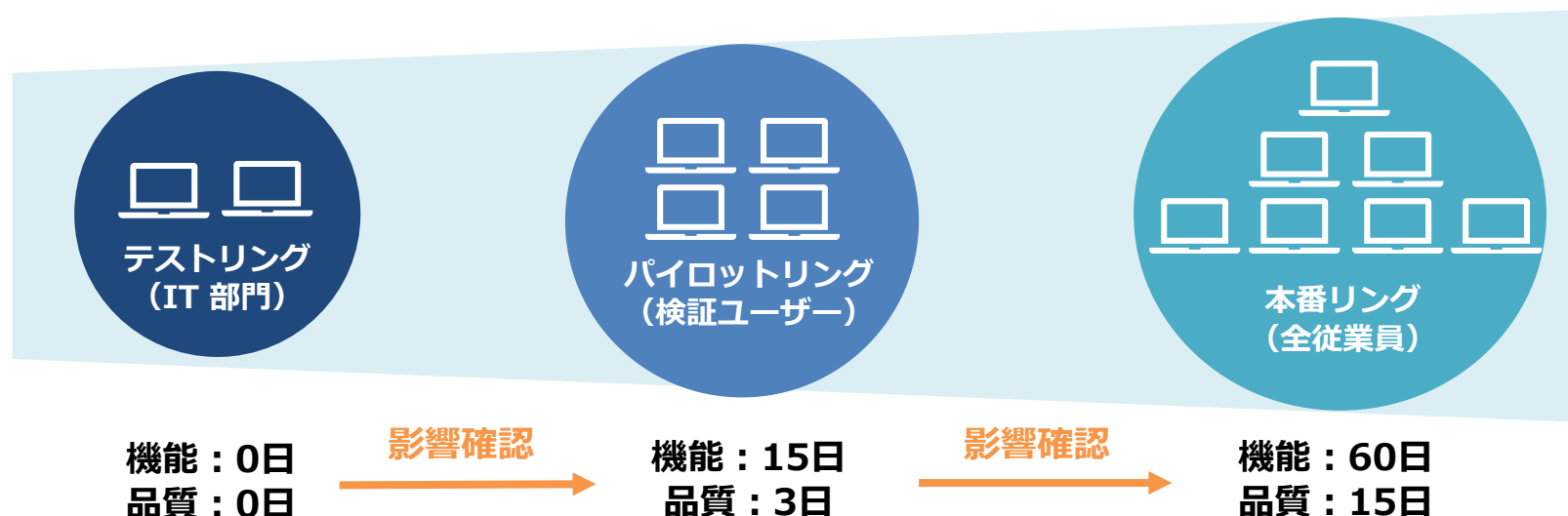
- **段階配信**：複数のリングを作成し、テスト～パイロット～本番といったデバイスグループごとに設定を変えて段階的に更新を展開。小規模のテストリングで動作検証後、パイロットリングへ拡大し、問題なければ全社本番リングで適用する。
- **内部設定項目**：品質更新プログラムと機能更新プログラムそれぞれの延期日数、ユーザー活動時間、再起動前の通知・自動再起動の期限、アップグレード時のユーザー選択可否、プレビュービルドの受信設定など、多岐にわたるクライアント挙動を指定可能。
- **期限と強制再起動**：更新リングに「期限」を設ければ、ユーザーが延期し続けていても指定日数経過後に自動インストールと再起動が実行。これにより自動インストールと再起動によるアップグレード適用を最終的に強制し、長期未適用デバイスを削減。
- **通知とユーザーエクスペリエンス**：ユーザーへの再起動通知方法や再起動の猶予、アクティブ時間外での自動再起動設定など、業務影響を抑える設定を提供。

適応イメージ

更新リング

延期日数

機能更新プログラム：最大365日
品質更新プログラム：最大30日



3.2. 主要機能

ここからは、前ページ記載のポリシー機能を詳細に解説していきます。

機能更新ポリシー (Feature Updates)

- **OS バージョン固定**：機能更新ポリシーで提供する Windows バージョンを指定すると、対象デバイスはそのバージョンに固定される。例えば「Windows 11 22H2 に留め置き」と設定すれば、新しい 23H2 が出ても適用を止め、安定運用が優先できる。
- **アップグレード許可**：「特定バージョンへのアップグレードを許可」を設定すると、バージョン固定の制御が解除され、指定した次期 OS リリースにアップグレード可能な状態にする。
- **アップグレード時期の調整**：機能更新適用のスケジュールも計画可能。更新リングと組み合わせ、例えばパイロットでは早期に新版適用、本番リングは検証完了後に追従といった段階ロールアウトも Intune 上で設計が可能。
- **互換性と展開計画**：アプリ互換性やユーザー通知を考慮し、ユーザー主導で任意タイミング適用 (通知のみ) か強制適用にするかを決定可能。組織の年間リリース計画に合わせた段階導入が可能。

品質更新ポリシー (Quality Updates)

- **クラウドベース展開管理**：品質更新ポリシーを適用した対象デバイスは、クラウド側の指示により該当の更新プログラムを取得・インストールを実行。これにより各デバイスのパッチ適用状況を Intune レポートで監視でき、パッチ適用遅延も把握。
- **迅速な展開**：月例の標準スケジュールを待たず、緊急のセキュリティ修正を前倒し適用するモードが利用可能。適用対象の KB や再起動猶予期間を指定し、通常の更新リングの延期日数設定を無視して早期に更新をインストール可能。
- **更新リングとの併用**：品質更新プログラムの展開と再起動は、通常時は更新リングで管理し、緊急時のみ品質更新ポリシーで管理、など状況に応じて使い分ける設計が推奨される。品質更新ポリシー適用時でも、クライアント側の再起動通知の有無や更新時のタイミング（業務時間外など）は従来通り更新リング設定に準拠される。

3.2. 主要機能

ここからは、前ページ記載のポリシー機能を詳細に解説していきます。

ドライバー更新ポリシー (Driver Updates)

- **自動 vs 手動承認**：ドライバーの取得を自動承認または手動承認に切り替え可能。手動承認の場合、Intune 内で承認待ちのドライバー一覧を確認して配布。
- **配信統制**：更新リングと同様に、デバイスグループを用いた段階展開が可能。
- **問題発生時のロールバック**：ドライバー更新による不具合が起きた場合、承認を取り消して配布停止や過去バージョン復元などの対応も想定可能。Intune から一時適用停止を実施可能。

各更新ポリシーの比較

項目	機能更新ポリシー	品質更新ポリシー	ドライバー更新ポリシー
管理対象	Windows バージョンアップ	セキュリティ更新・不具合修正	ハードウェアドライバー
更新頻度	年1～2回	毎月	ベンダー提供時
更新例	Windows11 23H2→24H2	月例累積更新 (KB)	各ベンダーのドライバー
制御内容	OSバージョン固定	品質更新プログラム展開指定・緊急展開	ドライバー承認・展開

3.3. Windows Autopatch の位置付け

Intune による Windows Update 管理をさらに効率化するサービスとして、Windows Autopatch があります。Windows Autopatch は、Intune や Windows Update for Business を活用して更新運用を自動化する Microsoft のマネージドサービスです。Intune の管理コンソール上にネイティブ統合され、Windows OS と Microsoft 365 アプリや Edge などの更新プログラム配信と管理をクラウドで自動化します。

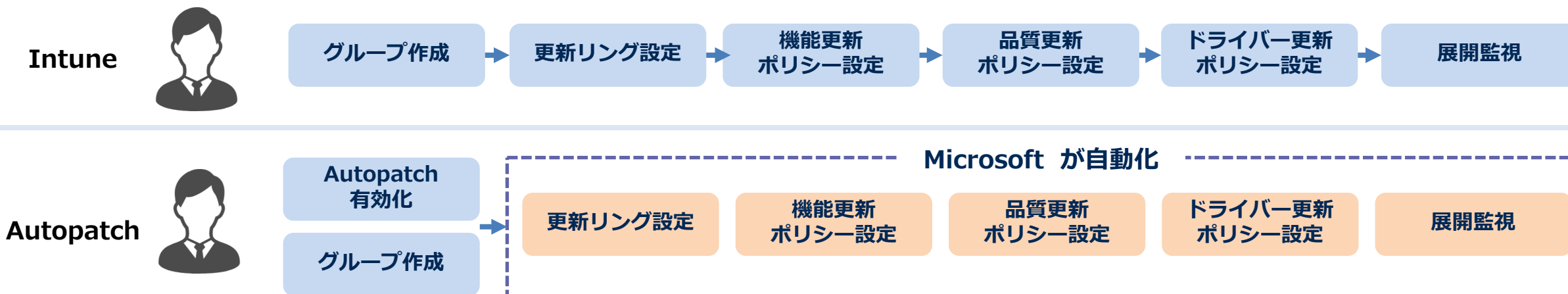
Windows Autopatch の概要

Windows、Microsoft 365 Apps、Edge、Teams といった更新を Microsoft が自動で管理し、組織の Intune 環境に自動的に更新管理テンプレートポリシーを適用するサービス。

更新管理を完全にクラウドに移行し、Microsoft のベストプラクティスに基づく更新運用を自動化することで、セキュリティ強化と生産性向上、運用負荷軽減を実現。

Intune と Autopatch の比較

Autopatch は、Intune で管理者が行っていた以下の各種設定を Microsoft が自動で行います。



3.3. Windows Autopatch の位置付け

Intune と Autopatch の比較

項目	Intune	Windows Autopatch
初期セットアップ	管理者が各ポリシーを手動で設計・作成。 Microsoft Entra ID グループでデバイスを適用範囲に割り当てて運用。運用開始前に更新戦略（リング構成、延期日数、再起動ルール等）を自社で設計。	Intune 管理センターから Autopatch を有効化。 必要な各種ポリシーを Microsoft 推奨で自動作成。 既定で4つの展開リングにデバイスを自動分類。 設定後、Microsoft が更新配信の計画と監視を実施。
更新制御の柔軟性	自社要件に応じてポリシーをカスタマイズ可能。 複数の更新リングを事業部門や地域単位に設定するなど柔軟な戦略が取れる。 適用タイミングや承認判断も管理者が全て統制できる。	Autopatch 内部ロジックに従うため個別の細かいスケジュール設定・承認は自動化されている。 標準テンプレートの範囲内でカスタマイズ可能。 緊急パッチ適用など一部機能は管理者操作の余地あり。
トラブル時対応	自社の検証環境で不具合検知しポリシー適用停止や更新リングへの割当解除等を即応する必要がある。 本番配信前に入念なテストやベンダー情報の収集が重要。	Microsoft の検証結果を踏まえ、更新の展開が自動的に調整。 専用アラートで管理者に問題デバイスを通知。

Intune 運用に向いている企業

- 大規模、複数拠点に展開している企業
- 各事業部門ごとの更新ポリシーを柔軟に変更したい企業
- 複数名の IT 管理者や専門家チームを持ち、パッチ管理の経験・スキルがある企業
- 厳格なガバナンスや認証プロセスをもつ業種・企業

Autopatch 運用に向いている企業

- 中小規模～中堅規模で、IT 部門が小規模な企業
- 運用負荷や工数を削減したい企業
- 複雑なポリシー設計・検証にリソースを割くのが難しい企業
- 一定の IT ガバナンス要件の範囲内で、Microsoft ベストプラクティスに準じた運用を希望する企業



4. 導入と設計のポイント

4.1. 更新リング設計

Intune の更新リングにおいて、更新の適用タイミングや挙動を同じにしたデバイスのグループ単位をリングと呼びます。リングをテスト、パイロット、本番と段階的に分けることで、万が一のパッチ適用失敗による全社影響を回避します。ここでは、更新リング設計の例を紹介します。

更新リング設計の例

リング名	テストリング	パイロットリング	本番リング
端末数の割合	全体の1-5%	全体の5-20%	全体の80%以上
適用先	IT部門・先行テスト端末	検証ユーザー端末	一般ユーザー端末
機能更新プログラム 延期日数	0日	30日	60日
品質更新プログラム 延期日数	0日	7日	15日
期限	2日	7日	14日

設計例のポイント

- **リング数**：必ず2つ以上のリングで運用しテスト段階を設ける。Autopatch は規定で2リングのため Autopatch 移行検討時は2リング以上での運用が前提となる。Autopatch 設定時に必要に応じてリング数を追加可能。
- **パイロットリング適用端末**：社内の多様なハードウェア構成や重要アプリを網羅した代表デバイスを含め、実運用に近い検証を行う。
- **機能更新プログラム延期日数**：更新リング上は最大に設定し、機能更新ポリシーで別途バージョン固定を行う。検証完了後にバージョンアップ。
- **期限の設定**：未適用端末の発生防止のため、必ず期限を設け最終的な自動更新を強制。

4.2. 機能更新ポリシー設計

機能更新ポリシーを使うことで、デバイスの OS を特定のバージョンに維持し、アップグレードを抑制するとともに、ターゲットバージョンを指定することで新バージョンへの移行を誘導することができます。計画的なアップグレードとして、初期は旧バージョンに留めて安定性を確保しつつ、検証済みの時期に新 OS へ段階移行するといった運用ができます。

機能更新ポリシー設計のポイント

- **対象 OS バージョン決定**：目標とする Windows リリースを決定。当面据置するデバイスとアップグレードするデバイスを分類し、それぞれ適したポリシーを計画。
- **更新リングとの併用**：既存の更新リング設定との併用設計を確認。バージョンを統一する場合は、更新リングの延期日数を0日、一時停止を解除して予期しない遅延を回避する。バージョンを統一しない場合は機能更新ポリシーを作成せず、そのまま更新リングで管理。

更新リングから機能更新ポリシーへの移行ステップ

更新リングの機能・品質更新プログラムの延期日数を設定している状態でバージョン統一したい場合は、機能更新ポリシーへの移行を推奨。更新リングは、更新の適用を延期することが目的であり、特定のバージョンで維持することはできない。設定した延期日数が過ぎると、アップグレードが適用される。

機能更新ポリシー作成
→対象 OS バージョン指定

グループ割り当て
→段階的に適用

レポートで
ステータスを確認
→ "Offer Ready" (準備完了)
になっていることを確認

更新リングの
機能更新プログラム
延期日数を0日にする

更新リングの一時停止を
解除する

4.3. 品質更新ポリシー設計

品質更新ポリシーを使うことで、特定の Windows 品質更新月例パッチを指定して例外的に即時適用させることができます。更新リングは更新の適用タイミングや再起動など、挙動を全体的に制御するポリシーです。品質更新ポリシーと更新リングを併用する設計が重要です。

品質更新ポリシー設計のポイント

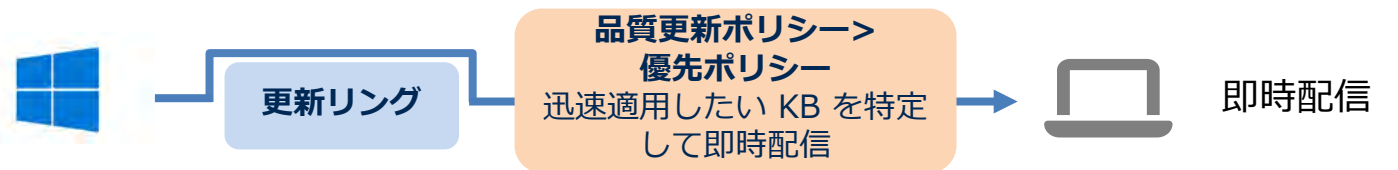
品質更新ポリシーでは、通常の品質更新プログラム運用は更新リングで引き続き行い、重要な脆弱性発生など緊急展開をする場合に品質更新ポリシーを実施する設計が推奨される。

展開シナリオ

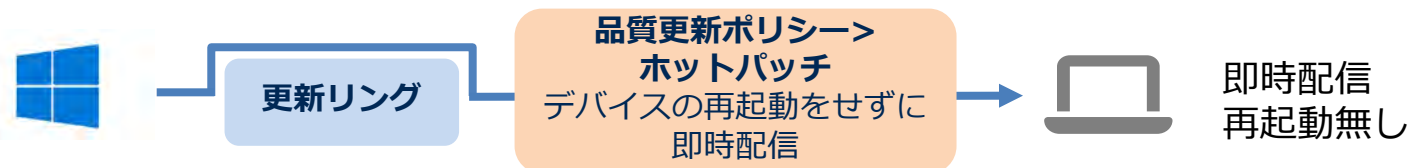
- **標準展開**：更新リングの延期日数に従って配信される。
※品質更新ポリシー活用しない



- **迅速展開**：緊急時の展開。品質更新ポリシーで優先ポリシーを作成し、特定 KB を即時配信。



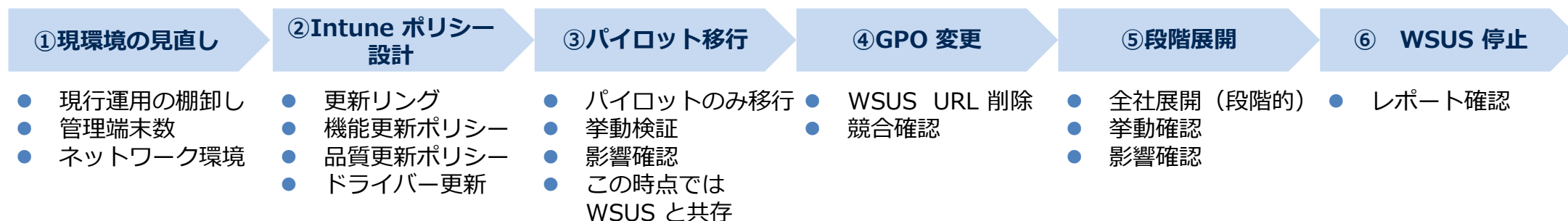
- **再起動不要展開**：ユーザー影響最小限の展開。
ホットパッチを有効化して、Windows 再起動なしで配信。
※ホットパッチは Autopatch 有効化が必須



4.4. WSUS からの移行における注意点

WSUS から Intune への移行は、単なる管理ツールの置き換えではなく、Windows Update の管理方法そのものを見直す必要があります。WSUS では、管理者が更新プログラムを個別に承認し、社内サーバーから配布する運用が中心であったのに対し、Intune では更新プログラムの配布自体は Windows Update サービスが担い、管理者は更新の適用タイミングや挙動をポリシーで制御する運用に変化しています。

移行フロー



注意点

- **運用の考え方**：管理者が個別に更新・配布する更新承認型→ポリシー制御型の運用に代わる。
- **競合**：GPO が残っていると Intune と競合してしまうため、GPO を必ず削除。
- **帯域設計**：WSUS と異なり Intune では各端末がインターネット経由で直接 Windows Update から更新を取得するため、ネットワーク構成や帯域設計の見直しが重要。
- **オフライン対応**：インターネット接続が限定的な環境では、Intune は利用不可のため、引き続き WSUS または SCCM（Microsoft Endpoint Configuration Manager）での管理が必要。ハイブリッド構成を検討。



5. ライセンス

5.1. 必須要件とライセンス

Intune で Windows Update 管理を行えるライセンスと、Autopatch 利用可能ライセンス一覧です。

必須要件

Microsoft Entra ID 参加 (Join または Hybrid)
Intune ライセンス (以下表記載)
インターネット 接続
Windows 10/11 Pro / Enterprise / Education
※Autopatch 利用時は Windows 10/11 Enterprise 以上必須要件

ライセンス

ライセンス	Intune Windows Update	Autopatch	主な用途
Intune Plan 1/Plan 2/Suite	○	×	最小構成
EMS E3/E5	○	×	ID+セキュリティ
M365 Business Premium	○	○	中小企業標準
M365 E3/E5	○	○	大企業標準

※更新リング含め品質/機能更新ポリシー作成後の端末配布に関するサポートは、一般的なトラブルシューティングのみとさせていただきます。
※品質/機能更新プログラムの仕様・不具合についてはサポート対象外とさせていただきます。